

『誰が開けたんやろ?』 4歳児 11月 伏見こども園

子どもの姿

桜の木の下で落ち葉を拾っていたAちゃんが「先生、きれいでしょ」と葉っぱに開いた穴から、保育者を見ながら言いました。保育者は「ほんとや。きれいやね」と言いながら小さな穴から覗くAちゃんと視線を合わせ、「穴、開いてるんやね?」と聞くと、「開いてる」とAちゃんは葉っぱを確かめるように見ながら言いました。すると「こっちは長丸の形の穴開いてる」と、Aちゃんは別の穴の開いている葉を見つけ保育者に見せにきました。近くにいたBちゃんもその声を聞いて「こっちのも開いてる!けど、こっちは開いてないな」と、穴開きの葉っぱを見つけ始めました。保育者が「何で穴が開いてるんやろ?」と声をかけると「うんとな、アリやで。アリが食べてん」とCくん。Aちゃんも「アリが落ちた葉っぱのところに来て食べたんじゃない?」「あ、でもダンゴムシかもな」と話しながら、穴開きの葉っぱを集めしていました。「みんなにもきてみよう」と、遊びの後の話し合いの時に友達に聞いてみることにしました。クラスでの話し合いで「トンボが飛んできて、羽が当たって穴が開いたんじゃない?」「ほんまや!ちっちゃい丸いのはトンボのしっぽが刺さったんや」「はらぺこあおむしみたいに幼虫が食べたのかな?」「ダンゴムシやったら、パリパリの落ち葉を食べるよな」と、子ども達は想像したり知っていることを思い出したりしながら伝え合いますが、結局答えは出ずには話し合いが終わりました。翌日、桜の木の下で穴開きの落ち葉拾いをしていたAちゃんとCくんがふと木を見上げた時「先生!落ちてない葉っぱにも穴開いてる!」保育者も「ほんとや!開いてるのがいっぱいあるね」「ということは、ダンゴムシは違うな」「やっぱりトンボちゃう?」「アリが木に上ってきたんかな」と友達と一緒に誰が開けた穴なのか話しながら落ち葉を集めている子ども達でした。

この場面での子どもの育ちや学び

落ち葉に穴が開いてるよ
(小さな穴から見えて楽しい)(気付き)

どうやって穴が開いたのか?
(不思議)(想像する)

落ちてない葉っぱにも穴が開いているぞ
(気付き)(なぜ?)(広がる想像)



- ・小さな穴から覗いて友達や保育者と繋がる楽しさ。
- ・落ち葉をよく見ると、葉っぱの真ん中に穴が開いていて、いろいろな形の穴があることに気付く。

- ・虫などの生き物が開けたのかもしれないと思像する。
- ・友達と想像したり考えたりしたことを伝え合い、想像が広がる。

- ・落ちてない葉っぱも穴が開いていることに気が付いて、想像が広がっていく。

保育者の思い

- ・落ち葉を集める中で、何気なく覗いて遊んでいる「穴開きの葉っぱ」の謎に気付き、友達や保育者と想像したり考えたりしたいと思い「穴、開いてるんやね?」と声をかけました。
- ・「トンボは飛ぶのが早いから羽が当たって穴が開いた」などという発言は子どもならではの発想で、想像するとワクワクしました。豊かな想像力をもちながらいつかこの謎が解けたらいいなと思い、子ども達が遊んだり生活したりする中で、少しづつ答えに近づいていくように、保育者も子ども達の気付きや不思議に思うことに寄り添っていきたいと思います。
- ・一年を通して桜の木を見たり触れたりすることで、様々な自然に触れる楽しさや面白さのきっかけになればいいなと思います。

家庭だったら…

子どもが大好きな落ち葉や木の実。「この木の実の葉っぱはどんなかな?」「落ち葉の葉っぱはどんな匂いかな?」といろいろな視点で手に取ると、新たな気付きがあるものです。答えはすぐ出なくても、そのことを子どもと楽しむ時間を大切にしてください。